

## 2 学校経営について

### 1 学校教育目標

#### つながりの中で自立する生徒の育成

私たちは言うまでもなく、家族や友人、職場、地域など多くの人々とのつながりの中で生きています。学校もまた、多様な他者とつながり、互いに学び合い、切磋琢磨しながら成長していくところです。

しかし、3年ほど前から起こったコロナ禍により、物理的にかかわりあうことが制限され、人とのつながりや地域とのつながりが希薄になってきています。このような時だからこそ、改めて、人とのつながり、学びとのつながり、地域とのつながり、未来とのつながりを意識した教育を進めていきたいと考えています。

本校の生徒の多くは、豊かな自然環境とあたたかな地域住民の中で成長してきました。そのため、素直で明るく、何事にも前向きに取り組む生徒がほとんどです。しかし、主体的に物事に取り組む態度や問題に直面したときに、自分で考え、判断し、行動する力には物足りなさを感じます。中学校は「自立して社会に貢献できる大人になるための基礎づくり」の時期です。変化の激しいこれからの時代をたくましく生き抜いていくためにも、「自立」することを意識して、指導・支援にあたっていきます。

#### 本校が目指す【自立する生徒の姿】

- ① 自分の行いに責任を持ち、自分で考え、判断し、行動できる
- ② できること、できないことを自覚し、助けを求めることができる
- ③ それぞれの違いや立場を尊重し、相手を思いやることができる
- ④ 自分以外の人や社会のために自分の力を役立てようとする

### 2 「目指す生徒像」・「目指す学校像」・「目指す教師像」

#### 1 目指す生徒像

#### 気づき、考え、行動する生徒

自立する生徒を育てるためには、自分で課題に気づくこと（課題意識）、自分事としてとらえること（当事者意識）が大切です。「誰かがやってくれる」、「自分には関係ない」という姿勢ではなく、課題意識・当事者意識を持って、自分で「気づく」ことのできる生徒を目指します。また、とらえた課題について指示を待つのではなく、どのようにして解決するのか、どう判断するのか、見通しをもって、自分で考え、判断し、主体的に行動できる生徒の育成を目指します。

#### 2 目指す学校像

#### 生徒も教職員も「元気な学校」

明るくあいさつが飛び交う学校、歌声が響き渡る学校、生き生きとした学び合いのある学校、生徒会活動や部活動がさかんな学校、心身ともに健康な教職員、意欲的な教職員集団、笑い声のある職員室、何でも話し合えるあたたかな職場、そんな様子を「元気な学校」という言葉に託しました。学校が元気になることで、地域にも元気を発信していきたいと思えます。

### 3 目指す教師像

## 信頼される教師

「信頼のないところに教育は存在しない」と言われるように、教育の土台は信頼関係です。生徒からの信頼、保護者からの信頼、地域からの信頼が教育効果を高めます。そのためにも、教育に対する情熱と使命感、幅広い視野と確かな指導力、向上心を持つ教師を目指します。反対に、信頼を失うような行為、言動が決してないようにし、生徒と先生の関係が日本一あたたかい学校づくりを推進します。

### 3 「自立のために育む資質・能力」について

- ① 自ら判断して行動するための「**思考力・判断力・表現力**」
  - ・習得した知識・技能を活用して課題を解決するための力
- ② 自らを見つめ、向上させるための「**自己調整力・レジリエンス**」
  - ・自分の感情や行動をコントロールする力。困難を乗り越える力。
  - ・自分の学びを客観的に振り返って価値付けたり、課題を改善していく力
- ③ 互いを尊重し、高め合うための「**コミュニケーション力**」
  - ・人の気持ちや感情、場の雰囲気を読み取り、意思疎通ができる力。
- ④ 意欲的・主体的に学び活動するための「**自己肯定感**」
  - ・ありのままの自分を肯定する、好意的に受け止めることができる感覚

学校教育目標の具現化に向けて、授業を柱として、様々な活動を通して育成していきたい資質・能力を「自立する生徒の姿」に対応する形で設定しました。もちろん、私たちが育成すべき資質・能力は多岐にわたるわけですが、本校ではこの4項目を特に意識して指導・支援にあたっていきます。

### 4 経営の方針

- 1 中学校教育は「自立して社会に貢献できる大人になるための基礎づくりの時期」であることを意識して指導にあたる。
- 2 授業や生徒会活動、自治会活動、行事、部活動など、あらゆる活動において生徒の主体的な取り組みを促し、「自立する生徒」の育成に努める。
- 3 新型コロナウイルスをはじめとする感染症の感染防止対策に万全を期すとともに、安全安心を最優先にしながら、積極的な教育活動の実施に向けて臨機応変に対応していく。
- 4 教育活動の中心である授業の中で、生徒指導の三機能を生かしながら、生徒を育てていく。
- 5 人と人とのつながりを大切にし、それぞれの立場や違いを尊重し合い、切磋琢磨しながら高め合える生徒集団の育成に努める。
- 6 いじめは、どの子にも起こりうる。どの子どもも被害者にも加害者にもなりうるという危機意識を持ち、家庭、関係機関と連携しながら組織として全力で取り組む。
- 7 小・中・高の学びのつながりを重視し、継続的な指導の充実にも努める。
- 8 校舎・校地の環境整備にも努め、明るく落ち着いた教育環境づくりに努める。
- 9 家庭や地域とのつながりを大切にし、地域とともにある学校づくりに努める。
- 10 安易な前例踏襲の風潮を破り、目的を明確にして、柔軟な発想で教育課程を見直す。

## 5 経営の重点

### 重点1：生徒の自己肯定感を高める指導の充実

#### (1) 居場所と出番、安心感のある学級づくりに努める

- ① 居場所（所属感）と出番、安心感のある学級づくりを進める。（生徒指導の三機能を意識した指導）
- ② 生徒と向き合う時間・機会を意図的につくる。
- ③ ゆるやかな学年担任制を実施し、チーム（担任団全体）で生徒を育てる。
- ④ あらゆる教育活動の中で、多様性を認め合う関係づくり、指導に努める。
- ⑤ エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを計画的に実施する。

#### (2) 生徒一人一人の心に寄り添う教育相談機能を充実させる

- ① 春・秋の教育相談期間、2学期末の三者面談を行う。
- ② 週1回、教育相談委員会を開催し、支援を要する生徒について情報共有する。
- ③ 受容と共感、相談しやすい教師の姿勢を大切にして、生徒との信頼関係を高める。
- ④ 校務支援ソフト等を活用した迅速な情報共有に努める。

#### (3) 特別支援教育力の向上を図る

- ① 支援を要する生徒に関する情報共有と個に応じた支援の充実を図る。（小中連携）
- ② 特別支援教育に関する研修機会を設定し、特別支援教育力の向上を図る。
- ③ ユニバーサルデザインを意識した教育環境整備に努める。

### 重点2：生き生きと学び合う授業づくりの推進

#### (1) 主体的・協働的な探究型学習を推進する

- ① 生徒の主体的・協働的な探究型学習の授業づくりに努める。
- ② 個に応じた「学び方」の指導を強化し、自己調整力の向上を図る。
- ③ ICT機器を積極的に活用し、個に適した学びに対応するとともに生徒のICT活用能力の育成を図る。

#### (2) 教師としての専門性・同僚性を高める

- ① 学校研究体制を充実させ、目指す生徒の姿を共有しながら授業力向上に努める。
- ② 相互授業参観やOJTを機能させた校内研修を充実させ、同僚性を高める。
- ③ 教科部会を活性化させ、指導法や教材・情報を共有し、指導力の向上に努める。

#### (3) 小中高の連携を強化する

- ① 河北町教育研究所の研修を中心に、小中の情報交流を活発に行う。
- ② 小中で授業を参観し合い、授業力を磨き合う。

### 重点3：自治力を高める活動の充実

#### (1) 自治力を高める活動を充実させていく

- ① 生徒の主体的な活動を促し、問題解決能力・コミュニケーション力を高める。
- ② 有用感と達成感、連帯感を生む行事を生徒の手で企画・運営させる。
- ③ 全校集会などを活用し、生徒が前面に出て活躍する場を設ける。
- ④ 「学級・学年優先日」を活用し、自治活動を活性化させる。

#### (2) 話し合い活動を充実させる

- ① 学級会活動を計画的に実施し、課題を自分たちで解決するスキルを身につけさせる。
- ② 授業その他の活動の中で、段階に応じた「聴き方・話し方」の指導を強化する。

### (3) 計画的なリーダー育成を図る

- ① 生徒会や学年のリーダー研修会を定期的に設け、リーダーとしての意識と資質の向上に努める。
- ② 縦割りの異学年交流活動（集会や行事等）を計画的に実施し、リーダーの育成を図る。

## 重点4：地域とともにある学校づくりの推進

### (1) 学校運営協議会制度を有効に活用する

- ① 学校運営協議会を開催し、学校の課題解決に向けて役割と責任を分担する。
- ② 学校評価（自己評価、学校関係者評価、アンケート）を実施し、経営の改善を図る。
- ③ 地域学校協働活動として、職場体験や職業講話などの連絡調整を図る。

### (2) 地域資源を積極的に活用する

- ① 専門性を持つ地域の方々を様々な場面で活用する。
- ② 地域とのつながりをテーマにした探究型の総合学習を実施する。
- ③ 河北町当局や河北町スポーツ協会と連携しながら、部活動の地域移行の体制づくりを進めていく。

### (3) 地域貢献活動を推進する

- ① 各地区の生徒代表と区長が語る会を開催し、地域の課題やボランティア活動等について話し合う。
- ② 地域行事への積極的な参加を促す。

## 重点5：健やかでたくましい心身を育む教育の推進

### (1) 心身の健康を自己管理する能力を育成する

- ① 心身の健康を自己管理できる生徒を目指し、早起きの習慣化やメディア利用の約束など生活リズムの確立について、生徒と保護者への啓発を図る。
- ② 体力の向上、気力の充実、健康の保持増進のための適切な指導を工夫する。

### (2) 自信と充実感を持たせる部活動を推進する

- ① 人間教育、キャリア教育の一環として、自己の役割を自覚し、思いやりの気持ちと充実感を持たせる主体的な部活動の運営に努める。

### (3) 美しい学校を目指した清掃活動を充実させる

- ① 自分で考え精一杯清掃することで、校舎と自分に誇りが持てる生徒の育成に努める。

## 重点6：実効性のある働き方改革の推進

### (1) 業務内容の柔軟に見直していく

- ① ICT 機器を有効に活用し、事務の軽減を図る。
- ② 目的や効果を吟味し、柔軟な発想で教育課程を見直していく。

### (2) 地域人材を有効活用する

- ① 授業や部活動、行事等に地域人材を活用し、教員の負担軽減を図る。
- ② 学校運営協議会で学校の諸課題について検討し、解決に向けて取り組んでいく。

### (3) 持続可能な部活動に向けた部活動改革を進める

- ① 部活動方針を共有し、ルール（休養日、活動時間等）を徹底していく。
- ② 部活動の諸課題に関する話し合いを進める。

# 令和5年度 河北町立河北中学校グランドデザイン

第2次河北町教育振興計画 基本目標  
ふるさとに学び、互いに高め合いながら  
いきいきと未来をひらく人づくり

校訓

創造

克己

協調

～世の中のためになる人間の育成～

## 令和5年度 学校教育目標

### つながりの中で自立する生徒の育成

人とのつながり 学びとのつながり 地域とのつながり 未来とのつながり

自立する  
生徒の姿

- ① 自分の行いに責任を持ち、自分で考え、判断し、行動できる
- ② できること、できないことを自覚し、助けを求めることができる
- ③ それぞれの違いや立場を尊重し、相手を思いやることができる
- ④ 自分以外の人や社会のために、自分の力を役立てようとする

#### 目指す学校像

生徒も教職員も元気な学校

#### 目指す生徒像

気づき、考え、行動する生徒

#### 目指す教師像

信頼される教師

#### 自立のために育む資質・能力

- ① 自ら判断して行動するための「思考力・判断力・表現力」
- ② 自らを見つめ、向上させるための「自己調整力・レジリエンス」
- ③ 互いを尊重し、高め合うための「コミュニケーション力」
- ④ 意欲的・主体的に学び活動するための「自己肯定感」

#### 自己肯定感の基盤となる感情

- 所属感・安心感 「居心地がいい」
- 達成感・有能感 「できた、わかった」
- 貢献感・有用感 「自分は役に立っている」
- 信頼感・連帯感 「仲間とつながっている」

## 令和5年度 学校経営の重点

### 1 生徒の自己有用感を高める指導の充実

- (1) 居場所と出番、安心感のある学級づくりに努める
- (2) 生徒の心に寄り添う教育相談機能を充実させる
- (3) 特別支援教育力の向上を図る

### 2 生き生きと学び合う授業づくりの推進

- (1) 主体的・協働的な探究型学習を推進する
- (2) 教師としての専門性・同僚性を高める
- (3) 小中の連携を強化する

### 3 自治力を高める活動の充実

- (1) 自治力を高める活動を充実させていく
- (2) 話し合い活動を充実させる
- (3) 計画的なリーダー育成を図る

### 4 地域とともにある学校づくりの推進

- (1) 学校運営協議会制度を有効に活用する
- (2) 地域資源を積極的に活用する
- (3) 地域貢献活動を推進する

### 5 健やかでたくましい心身を育む教育の推進

- (1) 心身の健康を自己管理する能力を育成する
- (2) 自信と充実感を持たせる部活動を推進する
- (3) 美しい学校を目指した清掃活動を充実させる

### 6 実効性のある働き方改革の推進

- (1) 業務内容を柔軟に見直していく
- (2) 地域人材を有効活用する
- (3) 持続可能な活動に向けた部活動改革を進める